



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
あったかウェルねっとニュース 第45号

2026年1月6日発行

ホームページ <http://attaka2025.stars.ne.jp/>



あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

～第43号の退任あいさつに続いて～

「福祉教育・ボランティア学習推進は日本の未来をつくる」 ～子どもは社会の宝！若者は地域の力！誰もが地域の財産！～

あったかウェルねっと相談役
 横田八枝子（坂戸市）

2026年あけましておめでとうございます。

去年は、昭和100年・終戦から80年を迎え、阪神淡路大震災30年・東日本大震災14年・熊本地震9年・北海道胆振東部地震7年・能登半島震災&大雨災害から1年が経ち、各地で平和や防災への誓いが新たにされました。また、デフリンピック東京大会が開幕されました。

2025年は、団塊の世代が全員75歳以上となり、超少子高齢社会の本格化が社会全体に大きな影響を与える年になりました。

あったかウェルねっとの活動は、以前から「2025年問題」による課題を突きつけられる年として注目し、今日まで研鑽を積んできました。

…ねっと設立から2025年に向けて…

急速に社会が変容していく中で、あったかウェルねっとは2001年設立より、活動は…

『地域での「福祉」を身近なもの幅広いものと捉え、効果的な福祉教育を展開させていくために、会員・関係者たちが協力し合い「福祉教育・ボランティア学習推進」の場を設け、互いに資質を向上させ、誰もが地域で自分らしく「生きる力」を培っていけるよう、福祉

のまちづくりに向けてネットし合い、柔軟に活動していく』

ことを設立趣旨として、県域で地域で出会い、連携し合い、実践を継続してきました。

しかし、現役世代人口が減少する一方で、令和7年（2025年）には団塊の世代全てが75歳以上の後期高齢者となり、令和22年（2040年）には団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となっていきます。

そこで、これからも様々な立場の関係者たちが、県域での『情報交換』から、地域での実践方法・地域課題を共有して、地域人材のトレードなど、地域情報を「みんなの力」に結集させて、学校で、地域で、福祉教育実践を積み重ねていくことが大切に思います。

振り返ってみますと、2000年「国政から地方自治・超少子高齢社会の予測・措置から契約・自己選択・自己決定・公的介護保険制度導入」と日本大改革の中「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成」が始まる。2001年あったかウェルねっと発足。2011年3月11日東日本大地震発生。2016年ねっと15周年テーマ『わかもの』から「若者への福祉教育研究会」が始動。サービスマーケティングプログラムの研究と実践を通して、若者が社会の一員として、自分らしく歩んでいけるよう、若者たちの活動を応援。2020年未曾有の新型コロナウイルス感染拡大という事態に直面し、オンライン始動。2021年日本福祉教育・ボランティア

学習学会「埼玉大会」を開催（事前実行委員会から開催まで「オンライン」にて）。2025年（令和7年）埼玉県の高齢者は、団塊世代全てが75歳以上の後期高齢者となり、高齢化率は27.8%と増加するが、これまでも様々な立場の人たちが出会い、「誰もが誰かの力になれる地域＝共に生きる社会の実現」について学びあい、皆で知恵を出しあってきた、等々が思い返されます。

また、埼玉県HPには、『人口減少・異次元の高齢化という活力の低下が懸念される時代であっても、地域共生社会の実現に向けた中核的な基盤となる地域包括ケアシステムを更に推進し、「支える側」、「支えられる側」という従来の関係を超えて、一人一人が生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる包摂的な社会づくりが必要です。また、近年の災害の発生状況や新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、災害や感染症が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築し、災害や感染症への対応力の強化を図ることが必要です。』との記載があるのです。

…今後に向けて…

少子・高齢社会に必要な「誰もが誰かの力になれる地域づくり」は、豊かな福祉観をもって、福祉の種まきを老若男女みんなで知恵を出しあって、誰もが幸せを享受できる地域共生社会に向かってこれからもずっと。

原田正樹先生はじめ諸先生方、県社協・市町村社協や関係する皆様、今後ともご指導ご助言のほど宜しくお願い申し上げます。

ここからはお知らせです

**お知らせその1
推進員養成研修をおこないます！**

「令和7年度あったかウェルねっと福祉教育・

ボランティア学習推進員養成研修」を実施します。今年度は1日（午前・午後）の研修です。

2025(令和7)年度 あったかウェルねっと 福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修

日時：令和8年2月28日（土）10時～16時
会場：彩の国すこやかプラザ3階多目的実習室
募集人数：25名

参加費：1,000円（学生は無料）

～内容（予定）～

【午前の部】

基調講義

講師：塚原雅代氏（埼玉県社協地域福祉部長）

「地域共生社会の実現に向けた福祉教育の推進」～埼玉県社協は今～

実践報告(1)

報告者：グループしゃぼん玉（川越市）

高齢者理解・人と人とのつながりの大切さを学ぶ

実践報告(2)

報告者：木元 牧氏（発達支援サークル

『ギフテッド』代表・鶴ヶ島市障害者支援
ネットワーク協議会（Sネット）会長）

お互いの個性を認め合って、誰もが暮らしやすい社会になることを願って。

グループワーク（情報交換）

【午後の部】

演習と講話 講師：坂本晃一氏

（墨田区立菊川小学校 主任教諭／

全社協福祉教育推進委員会 委員）

『自分を知る、他者を知るための福祉教育お役立ち講座』

【グループ演習①】

導入プログラム「他者意識を育てるコミュニケーションゲーム」

【疑似体験】

障害当事者の心理を体験しよう

【グループ演習②】

動画教材を使った模擬授業「発達障害の特性を考えよう」

お知らせその2 まなびばしゃべりばカフェ 2026 早春

単なる家づくりだけでなく、車椅子建築士だから出来る事・車椅子建築士しか出来ない事を掲げて住環境整備を提案している栗林氏に話題提供していただきます。

まなびばしゃべりばカフェ 2026 早春
快適な住環境は本人の自立と家族の負担軽減
～車椅子の建築家が願うのは家族の笑顔～

話題提供者：栗林 稔昌氏（川越市在住）
福祉建築事務所代表、脊髄損傷者友の会

日時：2026年3月15日（日）13時30分～15時
場所：ZOOMによるオンライン
参加費：無料

養成研修・まなびばカフェ
の申込みはこちら

養成研修・まなびばしゃべりばカフェの申込み

件名（研修か、カフェどちらか）・氏名・連絡先・
市町村・所属を明記の上メールでお知らせください。
申込先：ねっと事務局（須田）
メール：attakawelnet@gmail.com
TEL：080-8122-4496
ファックスの場合は049-283-1865（FAX用）へ

ここからは報告です

2025年5月17日（土）午前に2025年度総会を、午後に研修会を女子栄養大学坂戸キャンパスにておこないました。

報告その1 ねっと 2025 総会

2025年度ねっと総会

午前11時より総会を開催しました。日本福祉大学 原田正樹先生、埼玉県社会福祉協議会

熊井英朗福祉事業局次長、県社協の方々のご列席を頂き、総ての議事が承認され新年度がスタートしました。

代表：吉田&カレン

副代表：木野、

中島（新）

相談役：坪井、坂本、横田

事務局長：須田

会計：和田、吉村 会計監査：島田、木村（新）



2025年度総会
の様子

報告その2 2025年度研修会

2025年度ねっと研修会

若者のふくし教育研究会と合同開催
共催：鶴ヶ島市社協、川越市社協、坂戸市社協
協力：女子栄養大学坂戸キャンパス

研修会「地域でつながる若者のちから」
～若者と一緒に考えるみんなの“ふ・く・し”～

…プログラム…

- 13:15 開会・あいさつ 若者のふくし教育研究会
代表 横田八枝子（オンライン）
- 13:20 基調講演「若者と一緒に考える地域共生
社会とは」日本福祉大学学長原田正樹氏
- 13:50 実践報告
ファシリテーター 女子栄養大学深田耕一郎氏
 - (1) おおぞら高校川越キャンパス卒業生
「おおぞらサロン」
 - (2) 筑波大学附属坂戸高校卒業生
こども食堂「ひこうき雲」
 - (3) 公益社団法人西入間青年会議所
「若者と共創するまちづくり」
- 14:50 休憩
- 14:55 グループワーク
テーマ：「若者と一緒に考えよう！
～地域共生社会を実現するには～」



15:35 各グループ発表

15:45 講評 原田正樹氏

15:55 若者のふくし教育研究会のこれから

16:00 閉会

……

令和7年5月17日に女子栄養大学坂戸キャンパス文化表現ホールで、あったかウェルねっと&若者のふくし教育研究会の研修会「地域でつながる若者のちから～若者と一緒に考えるみんなの“ふ・く・し”」を実施しました。

この事業は、埼玉県社会福祉協議会の地域福祉プラットフォーム事業として実施しました。3社協以上の参加が必須で、彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク（あったかウェルねっと）/若者のふくし教育研究会“わかふく”/社会福祉法人鶴ヶ島市社会福祉協議会/社会福祉法人坂戸市社会福祉協議会/社会福祉法人川越市社会福祉協議会/鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会の共催。さらに、協力として、女子栄養大学坂戸キャンパス/社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会も一緒に企画運営を行いました。

当日の参加者は、113名（オンライン13名含）でした。日常的に福祉教育に取り組んでいる地域の方々、障害のある方、大学生等様々な方が一堂に会して、学び合いの場となりました。

あいにくの雨の日でしたが、会場は、熱気に覆われました。

前述のプログラムのとおり、若者が地域の中で、どのような活動を行っているかを報告していただきました。

はじめに日本福祉大学学長の原田正樹先生の基調講演があり、地域の方々を含めた参加者はかぶり物をかぶりながらの受講でしたが、極めて真面目に受講されていました。その風景は、なんともほほえましく、楽しい場となりました。



様々な立場の方が参加

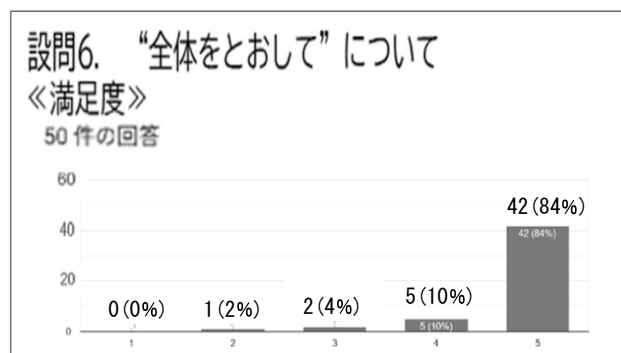
若者の参加が多く、中・高校生・大学生から高齢者までが一堂に会して熱気溢れる会場



原田先生はじめ、深田先生、川田先生もかぶり物をかぶって…（ありがたい！）

真面目に且つ真剣に講義をしてくださった先生方や、それを受け取る参加者の皆様のおかげで熱気あふれる学びの場となり、全体をとおして、世代間でお互いを尊重し合い、お互いから学び合う場となりました。

アンケートからも活動のすばらしさや学び合いの姿が見えてきます。アンケート結果は、すべての設問で、満足度が95%を超えており、満足度が高く世代や障害を越えて、認め合える場ができました。



アンケートより

参加者からのアンケートの一部を抜粋して報告します。

【基調講演「若者と一緒に考える地域共生社会」について】

- ・地域共生社会のために多くの世代が関わるのが大事だと思った。
- ・共生社会と地域共生社会の違い、歴史的な背景の説明・内容はもとより、大事な点がとてもわかりやすい講演でした。
- ・地域共生の概念が広まれば、より過ごしやすい環境が作れるのかなと思いました。
- ・“地域共生社会の理念”で支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域の住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく暮らせる。

【事例発表①“おおぞら高校卒業生”について】

- ・笑顔溢れた発表であった。
- ・とても生き生きしていましたね！がんば

れ！！（多数）

- ・一人ひとりが、成長しているのがよくわかりました。
- ・これから、経験を重ねると一層咲き、辛い時は根を張っているのだと思い、今の前向きの気持ちを大事にしてください。
- ・皆さんが、一生懸命そして楽しくやってきた事や自己成長の発表。後輩が受け継いでいかれる素晴らしさ。
- ・ボランティア活動を通じて、ひとりひとりが前向きな成長を自覚し、引き続き自分にできることを見つけていこうとする姿に感銘を受けました。

【事例発表②“筑波大附属坂戸高校卒業生”について】

- ・頑張ってください！（多数）
- ・今の活動が将来の夢につながっているのが、とても素敵だと思った。
- ・はじめの一步を踏み出す勇氣、感心しました。
- ・「ひこうき雲」の活動は、高校生、学生、地域がうまくつながることによって長く続けられていると思います。
- ・学生とは思えないほどの取り組みと、ハキハキとした見事な発表でした。「やらされている」のではなく、自分に興味があり得意な分野で「できること」「やってみたいこと」を形にし、自発的に福祉に取り組んでいるのだなと感心しました。居場所ができ、食を楽しみ、子ども達が周りには温かい大人がいることを知ってくれと生きる力につながると思います。

【事例発表③“西入間青年会議所”について】

- ・人との交流はすばらしい。
- ・パワーがものすごいとおもった。
- ・地元にこのような活動をしている団体が、存在している事に感動しました。
- ・継続的に大学生とともに地域活性化に取り組まれている様子を知ることができました。

- ・大人の活動の規模感の大きさに驚かされた。
- ・この街には課題が山積みしている。→だから不満！ではなく、自分たちで変えていこう！というエネルギーが素晴らしいです。

【“グループワークに参加してみても”について】

- ・様々な立場での交流が良かったです。
- ・若者から活力をもらいました。
- ・皆さんの活動を知れて、応援メッセージももらって、これからは頑張ろうと思った。
- ・多様な意見が聞けてよかった。
- ・色々な人と意見交換ができて楽しかったです。
- ・同じグループの若手の思いが素晴らしかった。
- ・気づいていなかった事を若い人達から話を伺い勉強になりました。今の時代は「輝く、頑張る」は言葉にしないように意識していましたが、若い人達が話そうとしてくれている感じが輝いて見えて嬉しく思いました。
- ・地域を見守る高齢者から働く世代の福祉従事者、未来を担う学生と、まさに多世代で福祉を語り合う場でした。みんなで若者にエールを送れたのも良かったです。

(ねっと・わかふく事務局、鶴ヶ島市社協：牧野)

報告その3

彩の国いろどりライブラリーのその後 埼玉県共生社会づくりの取組み

彩の国いろどりライブラリーをご存知ですか。2023年8月のまなびばしゃべりば夏カフェその2「彩の国いろどりライブラリーについて」で、埼玉県福祉部障害者福祉推進課（当時）成中 琢也氏より情報提供いただきましたので、覚えている方も多いのではないのでしょうか。

その後、埼玉県ホームページに正式に掲載されました。そこには、

「『共生社会』の実現に向け、県の附属機関である埼玉県障害者施策推進協議会の提言に基づく取組として、県内で福祉教育及び社会教育の取組を行う機関・団体の協力を得ながら、障害当事者が講師として地域の様々な場所で講座等を行う取組を始めることとしました。」

と記載されています。

次のようなメニューが掲載されています。

- ・彩の国いろどりライブラリーとは
- ・彩の国いろどりライブラリー活用のご案内
- ・県内で活躍する障害当事者講師の紹介
- ・登録講師に講座等を依頼するには
- ・彩の国いろどりライブラリーの関係機関・団体
- ・共生社会づくりのために役立つ情報

彩の国いろどり
ライブラリー
QRコード→



登録講師による講座紹介では、あったかウェルねっと会員で講師登録されている方々の授業風景の写真もあります。ご覧になってはいかがでしょうか。そして、今後の埼玉県の取組みにも関心を持っていきたいですね。



彩の国いろどりライブラリーHPより引用
「登録講師による講座等の様子」

(ねっと事務局：須田)

若者のふくし教育研究会コーナー

若者のふくし教育研究会

事務局長 小川和広（川越市）

若者のふくし教育研究会では、令和7年8月から令和8年3月にかけて、「能登半島災害

復興支援プロジェクト in わかふく」(埼玉県社会福祉協議会ひまわり基金助成事業)を実施しています。本事業には、おおぞら高校在校生と卒業生の有志グループの「おおぞらサロン」と「城西大学」の学生が参加し、川越市及び坂戸市内企業の皆様からのご寄附、“NPO 法人チーム東松山”など関係団体の協力のもと、被災地支援と募金活動に取り組んできました。

石川県珠洲市では、被災者宅の片づけ支援や地元祭りの手伝い、被災地の現状を学ぶガイドツアーなどを行い、被災地に寄り添う活動を実践しました。また、川越市や鶴ヶ島市を中心に、社会福祉大会や地域イベント、学校行事などで「のと復興支援マーケット」を開催し、能登産物を販売しました。この能登産物の購入代金は、川越、坂戸市内の企業様に学生自身がプレゼンを行い、主旨をご理解いただき、寄附金の協力をしていただきました。参加した学生のみならず、様々な方々に支援の輪を広げています。売上全額は、義援金として埼玉県共同募金会を通じ、石川県共同募金会へ送金しています。



川越市社会福祉
大会にて物販
(10月29日)

能登半島の現地支援に実際に参加した学生からは、「ニュースでは分からない被災地の現状を見て、聞いて、感じる事ができた」「一緒に作業し、笑顔で関わる事が支援になると学んだ」「この経験を、地元に戻って多くの人に伝え続けたい」といった声が聞かれました。

本プロジェクトを通じて、若者が災害支援を通じて、被災地の復興を自分事として捉え、学びと行動を重ね、「ふだんのくらしのしあわせ」のふくしを知る貴重な機会となっています。今後も継続的な被災地支援と、地域の企業・団体や学校との連携を大切にしたい取り組みを進めていきます。

県社協からの情報

埼玉県地域福祉推進プラットフォームのお知らせ

昨年度まで県域全体で開催していた「地域福祉推進プラットフォーム」。今年度からは、より身近なところでの多様なつながりの創出と地域における福祉教育の協同実践をめざして、地域展開しています。複数の市町村がつながり合い、複数のプラットフォームが育まれています。

2月には、県域のプラットフォームとして、今年度の各地の実践を発表し、皆さんで共有する場としたいと考えています。詳細については、のちほどお知らせしますが、予告させていただきます。皆様も是非ご参加ください。

日時：令和8年2月19日 午後

開催方法：zoomによるオンライン

※地域によりサテライト会場（会場に集合しオンラインに参加）もあります。

「都県・指定都市社協の担当者研究協議会」で 吉田代表に発表いただきました

11月17～18日に彩の国すこやかプラザで、「令和7年度秋季関東甲信越静ブロック都県・指定都市社会福祉協議会 組織・ボランティア業務担当者研究協議会」が開催されました。この長い名前の協議会は、関東甲信越静の都県・指定都市社協の担当者が相互連携を深め、各取組を推進していくことを目的としています。

1日目は、分科会1「都道府県・指定都市社協による市区町村社協への支援と協働について」、分科会2「福祉教育の推進～ふだんのくらしのしあわせを考えよう！～」をテーマにそれぞれの分科会に分かれて学びました。

分科会2は18名の参加者があり、あったか

ウェルねっとの吉田代表、ふくふく木曜会の紫村さんと田沼さんにお話しをいただきました。グループワークでは、各社協の担当者の意気込みを文字にしました。「体験が『楽しかった！』『大変そう、怖い』という感想で終わらせない福祉教育にする」、「1人でも多くの方へ福祉教育を」などの意気込みもありました。私たちは、皆さんのお力添えのもと、関東甲信越静一丸となって福祉教育に取り組んでいこう！と改めて感じた一日でした。

ちなみに2日目は「災害」をテーマに学びました。

福祉教育推進者研修の報告

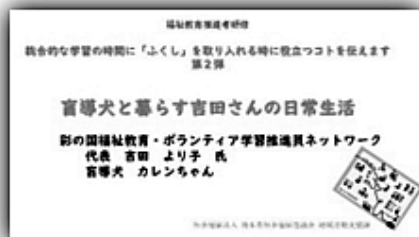
「総合的な学習の時間に「ふくし」を取り入れる時に役立つコトを伝えます 第2弾」として昨年3月から3本の動画を配信中です。

あったかウェルねっとの会員の皆様からの申し込みもありました。ありがとうございます。

また、動画を視聴された原田先生から「令和7年度全国福祉教育推進員研修（全社協主催）」の受講生に吉田代表の動画を視聴させてほしいとご希望があり、全国各地で福祉教育に取り組む約400名にお知らせしました。これまでの申込者と合わせて600名以上が視聴していることとなります。

なお、本研修申込は、令和8年2月28日（土）まで可能ですので、ぜひお申し込みください。

**研修参加
申込は
こちらから↓**



今後も県社協では「ふくし」を広くご理解いただけるよう引き続き研修を実施していきます。ご協力をお願いします。

事務局情報

情報提供のお願い

～各地域の福祉教育情報をお寄せください～
日頃の活動や地域の状況、感じたこと、福祉課題などの情報をお寄せください。会報、メーリングリストその他で共有させていただきます。

皆さまからの情報をお待ちしています。

ねっと事務局アドレス

attakawelnet@gmail.com

会費振込先のお知らせ

ねっと活動は会員の会費で運営しています。
(年1000円、賛助会員一口500円)

原則として口座振り込みとなりました。振込手数料についてはご負担をお願いしております。どうぞご理解のほどお願いします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進ネットワーク

メーリングリストの登録にご協力を

会員及び賛助会員の方にはメーリングリストで情報をお届けしています。現在郵送で受け取っている方でメールアドレスをお持ちのかたはメールアドレスをお知らせください。メールで受け取っていただくと助かります。

また、メールアドレス変更の場合は事務局までお知らせください。

編集後記

今号は5月以降の活動内容がギュ〜ッと詰め込まれて読み応え充分！じっくり読んでくださいネ。そして、あったかウェルねっとらしく共に学び交流しながら、あたたかな「ふ・く・し」の輪を広げていきましょう。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員
ネットワーク(通称：あったかウェルねっと)

編集：あったかウェルねっと(情報担当)

連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課

TEL：048-822-1435 FAX：048-822-3078

Mail：vc@fukushi-saitama.or.jp